

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年12月17日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年12月17日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【協力企業作業員のY装備でのRゾーンへの入域について】 当社社員が、プロセス主建屋内を現場調査していた協力企業作業員がRゾーンにY装備で入域していたことを発見し指摘した。 協力企業作業員に確認したところ、RゾーンとYゾーンの境界を誤認していたことを確認した。 今後、原因の深堀りと再発防止対策を検討する。</p>	G II	12月15日
2	<p>【地下水バイパス揚水井No. 8 サンドセパレータ出口配管フランジ面の腐食について】 協力企業作業員が、地下水バイパス揚水井No. 8 サンドセパレータの点検において、出口配管フランジ面の下流側に腐食を確認。 腐食は一部でシート面に残っていることから、液状ガスケット(※)塗布による復旧を行い継続監視をして行く。  ※液状ガスケット:配管等内部からの漏れを防止するため、接合面に塗布するシール効果のある流動性のシール剤。</p>	G III	12月11日
3	<p>【5号機非常用ディーゼル発電機(B)用海水ポンプ(C)及び(D)の吐出圧カススイッチ用計器元弁の不具合について】 当社社員が、5号機非常用ディーゼル発電機(B)計装品点検において、海水ポンプ(C)及び海水ポンプ(D)の各吐出圧カススイッチの計器校正試験のため計器元弁を全閉し、テスト弁から設定値まで圧力をかけたところ、圧力が抜けてしまうことを確認。 当該計器元弁の不具合と考えられるため、今後、点検予定。 当該計器元弁は通常時開運用のため、設備機能への影響は無い。</p>	G III	12月14日
4	<p>【既設多核種除去設備(B)共沈タンク(B)pH計入口弁からの滲みについて】 当直員が、既設多核種除去設備(B)の水張試験において、共沈タンク(B)pH計入口弁の弁棒近傍に滲みを確認。床面への滴下はなし。 現場確認の結果、当該弁のダイヤフラム(※)の破損と推定。pH計の前後弁を全閉し、滲み停止を確認。 共沈タンク(B)pH計入口サンプルラインが使用出来なくても、後段側の設備にてサンプリング可能なため、既設多核種除去設備(B)運転に支障なし。  ※ダイヤフラム:金属または非金属の弾性薄膜。</p>	G III	12月15日